

『医療経済研究』誌への期待

－編集委員長就任に当って－

宮川公男

この度本誌の編集委員長をお引き受けすることになりました。責任の重大さを強く感じ、私としてできる限りの努力をしたいと考えております。本誌の読者をはじめ関係者の皆様の御支援をお願い申し上げます。

私は現在主として政策科学を研究領域としており、医療経済についてはほとんど専門的学識を有しない者であります。しかし発行機関である（財）医療経済研究機構がその英文名をInstitute for Health Economics and Policy としていることから明らかなように、その研究も、また機関誌としての本誌も、政策志向を一つの特徴として強く打ち出そうとしているものと理解できますし、また医療経済は学際的研究領域であることもあり、その点で科学の政策志向性と学際性を目標として生まれた政策科学も貢献しうるものと考え、思い切って編集委員長の大役をお引き受けした次第であります。幸い編集委員にはわが国の医療経済研究を代表する方々に加わって頂いておりますので、心強く、しばらくの間責任者として役を務めさせていただきます。

さて医療経済学は応用経済学の一領域であると考えることが出来ますが、応用諸領域の中では発展が比較的遅れているといえましょう。経済学においては市場という概念が中心的な地位を占めていますが、保健・医療サービスには市場になじみにくい多くの側面があります。保健・医療サービスの専門性と多様性、その質の不明確性、健康や生命の金銭的価値表示の困難さ、需要の不確実性、保険診療にともなうモラル・ハザード、需要者と供給者間での知識・情報の非対称性など、伝統的な経済分析を困難にする多くの要因があります。このように市場になじみにくい多くの要因があるにもかかわらず、医療費支出はGDPの約7%というように経済的にも大きなウエイトを占めています。そしてその性格ゆえに、さまざまな公共的規制が存在しています。例えば医師や看護婦の資格のような参入の規制、広告などについての競争慣行の規制、報酬や価格についての規制、いろいろな安全規制などがあります。

このような公共的介入の必要性から医療経済の研究における政策志向への要請には強いものがあるといえます。そして保健・医療政策には、狭義に保健および医療サービスの提供による国民の健康の改善を目的とした政策から、広義には食品安全、喫煙規制、大気・水質保全、作業環境改善など広い範囲にわたると考えられます。したがって、本誌に収録される研究論文はそのような広い政策領域をカバーす

ることになります。また、そのような政策志向の研究とともに、本誌は医療経済および関連分野の理論的かつ実証的研究の発展のための場を提供するものでなければなりません。まだこの分野の本格的な専門ジャーナルがないわが国において、本誌は先導的役割を果たさなければなりません。特に、すぐれた研究者の養成は急務であり、そのためにも研究水準の全般的向上が望まれるところであります。さらにまた、高齢化社会の進行とともに増大が不可避である保健・医療費負担を考えると、医療経済に関する国民の基本的理解の増進も望ましいことであり、本誌は時にそのための啓蒙的役割も果たさなければなりません。

他に類似の定期刊行物のない現段階においては、本誌は以上のように多くの役割を果たさなければなりません。良い医療と健康は人間の生活の質（QOL）の最も根幹的なベースであり、人間の尊厳性を保つために欠くことのできないものであります。そしてそこで問われる価値はきわめて多元的なものであります。本誌の誌名は「医療経済研究」ですが、経済的価値を中心にしつつも、人間の尊厳性にかかわる他の重要な価値をも十分視野に入れた研究を世に問うて行かなければなりません。以上のような考え方に立って、本誌の編集を進めて行きたいと思っておりますので、寄稿される研究者の方々や、関係各位の御支援と御協力を重ねてお願い申し上げます。
